

「火処変われば、鍋・釜も変わる」

— 栃木県内の発掘調査からみた煮炊きの変遷 —

1. 概要

栃木県内の発掘調査から、炉の時代（縄文時代～古墳時代中ごろ）、カマドの時代（古墳時代中ごろ～平安時代）、囲炉裏の時代（鎌倉時代～江戸時代）の代表的な煮炊き用の土器を展示し、土器の出現から現在まで、火所にあった鍋・釜の変化の概要を理解してもらう。

2. 展示資料一覧

	資料名	遺跡名	内容
1	縄文土器	中島笹塚遺跡（宇都宮市）・馬門南遺跡（佐野市）	縄文時代から近世までの煮炊き用の道具の変遷を時代順に展示する。
2	弥生土器	磯岡北遺跡（宇都宮市）	
3	古墳時代前半の土器	烏森遺跡（下野市）・五料遺跡（小山市）	
4	古墳時代後半の土器	滝田本郷遺跡（那須烏山市） 岡ノ内遺跡（那珂川町）	
5	平安時代の土器	滝田本郷遺跡（那須烏山市）・山海道遺跡（下野市） 彦七新田遺跡（市貝町）・鹿沼流通工業団地内遺跡（鹿沼市）	
6	中世の内耳鍋	北の前遺跡（宇都宮市）	
7	近世の内耳鍋・鉄鍋	北の前遺跡（宇都宮市）・砂田遺跡（宇都宮市）	

3. パネル一覧

	パネル名	内容
1	炉の時代（縄文時代～古墳時代前半）	竪穴住居内に付設された様々な炉について紹介する。
2	カマドの時代（古墳時代後半～平安時代）	カマド・囲炉裏の構造について、イラストを用い分かりやすく紹介する。
3	囲炉裏の時代（鎌倉時代～江戸時代）	
4	近代・現代	現代の鍋や釜、炊飯器を写真で紹介する。



展示風景